

胎内市租税教育推進協議会長賞

税金の大切さ

胎内市立 築地中学校 三年 星 野 ひかる さん

私は小さい頃、百円ショップなのになぜ百八円なのだろうと疑問を持っていました。その八円は税金ということをお母さんに教えてもらいました。また、税金が私たちの暮らしを支えていることを授業で学びました。

支えてもらっている例をいくつか上げてみると、道路整備や除雪車の運行、ゴミ処理、年金、義務教育の教育費、救急車・消防車の出動などがあります。また、災害の復興にも役立てられています。例えば、洪水や津波によって運ばれてきたがれきの撤去、仮設住宅や避難所の設置です。

このように、様々な場面で税金が使われていることが分かります。

次に、税の種類があることを授業で知りました。

一つ目は、国に納められる税です。主に会社などで働いている人の給料から引かれる所得税、買い物をしたときに引かれる消費税、法人を所得している人に課される法人税などがあります。

二つ目は、地方に納められる税です。主なものは、車を所有している人に課される自動車税、土地や建物を所有している人に課される固定資産税、温泉に入ったときに支払う入湯税などがあります。すべての種類を合わせると約五十種類もあるそうです。

私は、二〇一九年に増税をしたときなぜ増税をするんだらう、値段が高くなってしまおうとネガティブに捉えていました。しかし、増税をすることで利点があります。それは、国や地方の収入が増え、公共サービスの充実、世代に関係なく平等に納税ができるという利点です。また、二〇二〇年では働き手が高齢者一人を三・六人で支えています。二〇五〇年では高齢者一人を一・三人で支えることになる予想です。老後に安定した暮らしやサービスを受けるには今よりたくさんの税を納めることになるかもしれないということです。そのデータを聞いて税金の大切さを知りました。そして、これから私たちは大人になるにつれて今より多くの税を納めることとなります。それは、私たちの暮らしや未来を豊かにするものだと考えながら生活していきたいです。